

今後も気温が低く日照時間が少ない日が続く見込み！ 不稔籾の発生やいもち病が懸念される！

平成 15 年 7 月 18 日
やまがたこだわり安心米推進運動本部

1 生育概況

7 月 18 日の調査によれば、「はえぬき」は、平年に比べて草丈はやや短く、茎数は並みで、葉数は 0.4 枚程度少ない。葉色は平年より淡いが指標値並みとなっている。なお、幼穂調査によれば、「はえぬき」では生育指標どおりの出穂期（8 月 9 ～ 10 日）と予測され、低温により不稔籾の発生が最も懸念される減数分裂期が 7 月 5 ～ 6 半旬にあたる。

品 種 名	場 所	予想出穂期	平年出穂期	*出穂15～11日前(本年)
はえぬき	農業試験場	8 月 6 日	8 月 4 日	7 月 22 ～ 26 日
	庄内支場	8 月 9 日	8 月 6 日	7 月 25 ～ 29 日
	中山間地研究部	8 月 9 日	8 月 8 日	7 月 25 ～ 29 日
ササニシキ	庄内支場	8 月 8 日	8 月 5 日	7 月 24 ～ 28 日
あきたこまち	農業試験場	8 月 5 日	8 月 2 日	7 月 21 ～ 25 日
	中山間地研究部	8 月 5 日	8 月 2 日	7 月 21 ～ 25 日

*低温に弱い時期

2 緊急の技術対策

7 月 18 日発表の山形地方気象台発表の 1 か月予報によると、今後しばらく低温、日照不足が続く見込みである。

このため、以下の点に留意して当面の技術指導にあたる。

(1) 低温対策等の徹底

稲はまもなく減数分裂期を迎える。この時期に低温に遭遇すると不稔による減収が懸念される。よって、中山間部では、できる限りの深水と漏水の防止により幼穂の保護を図る。また、平坦部であっても出穂前 15 ～ 11 日頃に最低気温 17℃ 以下の日が連続して出現すると予想される場合は、水深を 15 cm 以上の深水に保つ。冷害遭遇時に稲体の窒素含有率が高い場合は不稔歩合がより高くなることから、過度な穂肥は行わない。

(2) 病虫害対策の徹底

低温が続くと稲体の体力が弱まりいもち病にかかりやすくなるため、出穂直前と穂揃期の 2 回は必ず防除する。粒剤の防除を行う場合には出穂 20 ～ 10 日前に遅れないように施用する。

また、斑点米カメムシ類の発生が平年より多いため、薬剤防除は必ず穂揃期と穂揃期後 7 ～ 10 日の 2 回畦畔を含めて実施する。発生が多いところでは、穂孕後期（出穂 7 ～ 5 日前）の薬剤防除も実施する。また、畦畔、農道等の草刈りは、斑点米の発生を助長することから、8 月末まで行わない。

いらない農薬は使わない！ 使う場合は適正に！ 使ったら記帳する！

低温と日照不足に関する山形県気象情報 第2号(訂正)

平成15年7月18日13時40分

山形地方気象台発表

山形県では、引き続き今月末にかけても気温が低く、日照時間の少ない状態が続く見込みです。農作物の管理等には十分注意して下さい。

山形県では、6月24日から梅雨前線やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で天気がぐずつき、気温が低く日照時間の少ない状態が続いています。

引き続き今月末にかけてもオホーツク海高気圧が東北地方に張り出し、最高気温が平年より2～3度低く、最低気温は17度以下となる見込みです。また、日照時間の少ない状態が続く見込みです。

農作物の管理等には十分注意して下さい。

なお、6月24日から7月17日までの主な地点における最高気温の平均と平年差、日照時間と平年比は以下の通りです。

(気象官署による速報値)

	最高気温の平均	平年差	日照時間 時間	平年比 %
山形	24.4	-2.1	63.9	62
酒田	23.3	-1.8	85.9	72
新庄	23.1	-2.2	71.4	70

(アメダスによる速報値)

	最高気温の平均	平年差	日照時間 時間	平年比 %
米沢	24.3	-1.1	55.8	79
尾花沢	22.0	-1.7	51.7	60

「)」は観測値に欠測を含む。＝